

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

## ～「SDGs」の要諦が・・・校訓に・・・ある？～

石田梅岩・・・3年生の日本史B選択者は知っていると思いますが・・・ニックネームは・・・「**石門心学の祖**」ですよね。日本史の用語集には・・・「18世紀初め（江戸時代中期）神・仏・儒・道教を学び、京都で庶民的な学問として「心学」を広めた。**商売の正統性と商人の存在意義を主張した心学書「都鄙問答（とひもんどう）」を著した。**」とあります。

この石田梅岩について、東洋思想家の田口佳史さんと思風庵哲学研究所所長の吉村思風さんが「後から来る者のために伝えたい思い」というタイトルで対談されています。

石田梅岩は、我々が人生を歩いていく上でとても大切なことを二つ説いてくれていると思うんです。それが「正直」と「儉約」です。

「正直」というと軽い印象を受けるかもしれませんが、神、儒教でいう天、老荘でいう道、そうした絶対的な存在と人間が直に触れ合うことができる心こそが「正直」なんです。

そして梅岩は、正直に商売することによって、利益よりも遥かに大きな喜びを得られる。それは正直を通して神、天、道と繋がったという喜びであって、商人はその喜びこそ真に追究すべきだと説いているんです。

ですから、梅岩が言う正直は嘘をつくなというのとは微妙に違って、自分の心に問うて正直でなければならないということです。自分を騙すことはできませんから、自分が納得することが「正直」だ。

もう一つの「儉約」について梅岩は、「私の言う儉約はケチということではない。世界に必要なものを独り占めしないことだ。分かち合うことこそが儉約だ。」と説いているんです。

これは今盛んに言われている「SDGs」を超える発想です。つまり梅岩のこの儉約という発想には、今世界が直面するあらゆる問題を解決する糸口があるんです。

彼が今から250年近く前にこうした先駆的な主張をしているんです。こうした梅岩の思想にもっと光を充てなくてはならないと私は考えています。

・・・私は、今人類に求められているのは、戦って勝つことに最大の価値を置いた文明を乗り越えること。勝つことよりもっと素晴らしい価値観を発見しなければならない時を迎えていると考えます。

勝つことよりも素晴らしいことは何か。一言でいえば、理屈を超えた愛だと私は考えます。愛とは何か。

それは不完全な者どうしが許し合い、教え合い、学び合い、共に力を合わせて矛盾に満ちたこの世界を生きる心だと思います。

考え方の違う人とやっぴいける。価値観が違っても一緒に仕事ができる、違いがあっても助け合い。教え合い、学び合いやっぴい行く。これが勝つことよりも素晴らしい、美しい生き方なんだということ、これからの人類は発見しなければなりません。けれども私たちはまだ、経済にしても、政治にしても、国際関係にしても、競い合って勝つことに究極の目標・理想を置いてしまっています。・・・

人類史的に大きな課題は・・・いかにして人類の人間性をもう次元高いレベルに進化・発展・成長させるか。ここに人類の未来はかかっているんじゃないかと私は強く感じます。・・・

『致知』2022年7月号『後から来る者のために伝えておきたいこと』



「SDGs」の要諦と、本校の校訓「誠実」（偽りのない真心）・「克己」（己に打ち克つ心）・「忠恕」（他を思いやる心、相手の立場になって、気持ちを分かち合い、ともに解決策を考える心）と繋がりませんか？  
今世界で起きている様々な問題を「競う」・「勝つこと」・「独り占め」という視点で見ると・・・